

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会レガシーの創出提案

静岡県立大学 大久保あかね観光研究室
指導教員：静岡県立大学教授 大久保あかね
参加学生：鎌野楓奈、飯田晃大、田邊佳穂
名波萌、羽畑真治、鈴木春香
長岡佳成、長谷川真優

1. 要約

小山町では、東京オリンピック・パラリンピック自転車競技が開催される。これらを契機とした地域活性化やレガシー創出のため、3回の現地調査と小山町民へのアンケートを実施した。一連の活動を通して、観光客向けサイクリングコース、各コースの紹介動画、紹介パンフレットの作成と、町民向けの提案を考えた。

2. 研究の目的

小山町は東京オリンピック・パラリンピック大会のロードレースの会場に指定され、これまでに小・中学生を対象としたオリンピック・パラリンピック講座から、町民による沿道の花壇整備に至るまで多方面にわたる準備を進めてきた。昨年3月に大会の延期が決定されて以降も、Eバイクのレンタル事業を開始するなど、大会のみならずその後のレガシーとしての「自転車のまちづくり」を推進している。

本研究では、レガシー創出の一助として①観光客に向けたサイクリングコースの創出、②町民（生徒と保護者、事業者）を対象とした意識調査を実施した。この2つの方向性から、大学生の視点で小山町の地域活性化やレガシー創出に寄与する提案を行うことを目的としている。

3. 研究の内容

今回の提案に向けて、以下のように3回の会議と3回のフィールドワーク、2つのアンケートを実施した。

・8月17日【小山町オリンピック・パラリンピック推進局とweb会議】

「自転車のまちづくり」を掲げて昨年から取り組んだ諸活動、10月のレンタサイクル開始計画など、これまでの事業の経過や今後の計画、小山町の自転車事情について説明を受けた。

・9月28日【フィールドワーク①：サイクリングツーリズム体験】

走行距離33kmで坂道を攻める「本気コース」、女性向けの「のんきコース」の2コースで実施。ゼミ生が実際に小山町をEバイクで走行することで、魅力と課題を発見できた。

小山町の魅力は「自然豊かなところ」であり、景色を眺めながら、きれいな空気と風を感じるサイクリングは町の魅力を全身で味わうのに最適であり、プロジェクトの可能性を確信した。



・10月30日【フィールドワーク②：オリ・パラ推進局、商工観光課、教育委員会との意見交換】

1) 教育委員会と、生徒とその保護者を対象としたオリ・パラに関する意識調査について協議した。天野教育長に快諾いただき、調査対象校と学年を選定し、校長会を通して配布することに決定した。

2) オリ・パラ推進室、商工観光課とは、ロードレースのコース沿道の商店に対する意識調査についての協議と、本プロジェクトの成果に関する意見交換を行った。当初から計画に入れていたサイクリングコースは、歴史や景色などのテーマ別コースを提案することが決定した。



・11月2日【町民アンケートの作成・配布】

教育委員会との協議で選定した、成美小学校、明倫小学校、足柄小学校、須走中学校、北郷中学校、小山高校の生徒と保護者を対象とした「オリンピックと自転車に関するアンケート」を作成、教育委員会と町役場の監修を経て、1200部を印刷し、小山町あてに発送した。

町民アンケートは、各学校で対象学年の生徒と保護者に配布及び回収をお願いし、教育委員会でまとめて一括返送していただいた。

・11月13日【商店・事業者アンケートの作成・配布】

小山町役場との協議で選定した30の商店・事業者に対して、「オリンピックと自転車に関するアンケート」を作成、配布した。

・11月18日【小山町民アンケートの回収】

教育委員会から計1003件の回答済みアンケートが届く。（アンケート分析結果は、後述）

・11月25日【小山町の商店・事業者へのアンケートの回収】

FAXで14件、電話で2件、計16件の回答が届く。（アンケート分析結果は、後述）

・12月3日【オリ・パラ推進局、商工観光課との意見交換】

分析したアンケート結果を共有した。「サイクリスト増加に伴う交通事故の増加が不安」という声が多かった件について、事故を防ぐにはサイクリングコースの選定が重要であり、交通量の少ない道路を通るコースにしてほしいという意見が出た。

さらに現在検討しているサイクリングコースについての意見交換も行った。公園や寺は無人の場所が多いという不安の声や、体験コースには現時点で実施されていないガイドツアーは入れず、カート体験に特化してほしいという意見が出た。

・12月11日【フィールドワーク③：コース確定のための視察、動画撮影、商店へアンケートのお礼】

コース確定に向けた最終視察を行い、道の駅ふじおやま、サンファーム富士小山、丸中わさび店等で各コースPR動画のための動画撮影を行った。また商店にアンケートのお礼を直接伝え、コースに組み込む許可もいただいた。「自転車競技のルールや楽しみ方が分かるのもっと楽しめそう」という意見もいただいた。



4. 研究の成果

(1) 当初の計画

①オリ・パラが延期されたことに対する町民の意識調査（オリ・パラを歓迎するための仕掛けを考えるため）。

②オリンピックコースを使ったイベント（町内外へのコース周知のため）。

(2) 実際の内容(A予定通り、B一部修正、C中止)

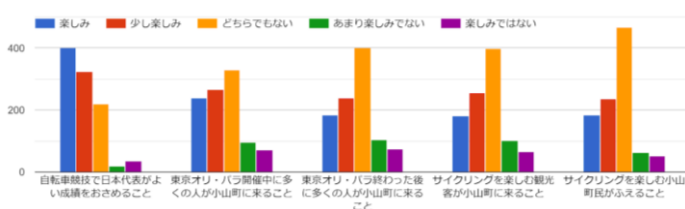
初回の会議で町民と自転車の親和性が低いという課題を伺い、町民の意識調査はオリ・パラに対する意識だけでなく、サイクリングに対する意識調査も含めて計画・実施した。また対象者を一般の町民に加え、商店・事業者を加え、2種類の調査を実施した。(B)

オリンピックコースを使ったイベントは、新型コロナウイルス感染症を考慮し中止した。(C)

小山町オリ・パラ推進局から「自転車の街づくり」を掲げていること、また「コロナ収束後に来てみたいと思えるビジュアルを作りたい」ということを伺った。そこでサイクリングコースを作成し、動画やパンフレットで魅力を伝える素材を提案することにした。(B)

(3) 実績・成果と課題

本研究の成果を、町民及び事業者に向けて実施したアンケート分析と、サイクリングコースの提案に分けて説明する。

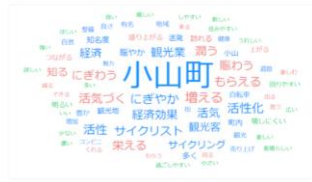


I. アンケート分析

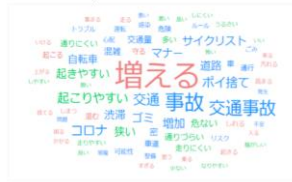
住民の意識調査で、オリ・パラ自転車競技の観戦予定に対する質問では、「未定」との回答が最も多く、次点は「観戦せずに自宅で過ごしたい」だった。期待度の質問ではオリ・パラを楽しみにしている人が多い反面、オリ・パラ後のことにはあまり興味を持っていないことが読み取れた。サイクリング

については、坂が多いこともあり自転車に乗る町民は少ないが、自転車が好きで乗っている愛好家も存在していた。

メリット



デメリット



また小山町を訪れるサイクリストが増加すると想定し、そのメリット・デメリット（自由回答）をテキストマイニングしたところ、図2のようにメリットは活性化、デメリットは交通事故や渋滞への懸念があることが読み取れた。

商店・事業者の意識調査では、各商店の「自転車の街づくり」への協力意思を確認できた。

II. サイクリングコースの提案

サイクリングコースについては、体験・グルメ・歴史文化・景色をテーマに、計4つのコースを作成した。またコースや小山町の魅力を伝えるために、それぞれPR動画とパンフレットも作成した。各コースの動画とパンフレットは、QRコードを添付する。

【景色コース「Ebikeで制覇しよう 足柄峠を！」】

運動が好きな方向けで、坂道が多い大変なコースだが、足柄峠や誓いの丘公園で見られる綺麗な景色が魅力である。小山町の魅力的なスポットや標高が高い場所から富士山を眺められるよう意識して作成した。



【グルメコース「食材GETして、BBQをしよう！」】

美味しいものを食べてリフレッシュしたい方向けで、小山町の採れたて野菜を使ったBBQが魅力である。目的地が狭い範囲に集中しているので、出発駅と帰着駅を別にする事で、その範囲だけでなく小山町を広く回ってもらえるよう意識して作成した。



【体験コース「こんな体験見逃せない！」】

アクティブな方向けで、オートパラダイス御殿場のカート体験や富士スピードウェイの体験メニューが魅力である。できる限り富士山が綺麗に見える道を通ることを意識して作成した。



【歴史文化コース「ご利益満載コース」】

歴史文化に興味がある方向けで、神社など神聖なポイントを巡るところが魅力である。神社だけでなく、小山町を一望できる公園や道の駅など、小山町らしさを感じられるスポットも組み込むことを意識して作成した。



【4つのコースをまとめたパンフレット】

小山町全体のおすすめスポットが分かるところが魅力である。コースタイトルでコースの特徴を示すことによって、マップを見ながら自分にあったコースが選べるように意識して作成した。



しかしながら、作成したパンフレットはあくまでも現段階での提案に過ぎない。実現に向けて掲載情報の細かな部分をより慎重に検討することが、今後の課題である。

(4) 今後の改善点や対策

サイクリングコースやそのPR動画は、小山町役場に観光振興のために活用していただきたいと考えていた。しかし小山町HPへの掲載では、小山町に興味を持ちHPを訪れた人にしかアプローチできない。彼らだけでなく「旅行先を探している人」「サイクリングが好きな人」に発信して小山町の魅力を知ってもらい、実際に来てもらう方が、ターゲット層が広がるので、より地域活性化に繋がると考える。よってそのような層へのアプローチ方法を提案することも必要だったと考えている。

5. 地域への提言

本研究で実施したアンケート、フィールドワークを通して小山町のオリ・パラのレガシー創出及び活性化に向けて、小山町外の観光客(外部)と小山町民(内部)への働きかけが必要であると考えます。

まず外部への働きかけについて3つの方向から提案したい。

一つ目は【Eバイクレンタル事業の周知】である。本プロジェクトでは観光客に向けたサイクリングコースを作成したが、それ以前に観光客に「小山町ではEバイクのレンタルを行っている(=自転車愛好家でなくともレンタルEバイクで十分に楽しむことができる)」ことを知らせなければならない。

二つ目は【サイクリスト増加を見据えた整備】である。視察時のサイクリングで、走行中には地図を見られないことを実感した。そのため主要な施設や店の方向や距離を示す看板の設置を提案する。

三つ目は【経済効果を生む取り組み】である。町民アンケートで、サイクリスト増加による経済効果を期待する声が多かった。そこで町民に観光による経済効果を実感してもらえるような小さな取り組みを積み重ねるべきだと提案する。例えば地元の飲食店(仕出し弁当池善、丸中わさび店、飴屋、金太郎ベーカリー、橋本屋商店など)と協力して、サイクリストが休憩時に食べられるような、かつサイクリング時に形が崩れないような「チャリ弁」を開発・提供することを提案する。

また外部への働きかけに加え、町民への働きかけも3つの方向から提案したい。

一つ目は【町民のサイクリストへの理解】である。まずは本プロジェクトで作成したサイクリングコースを、町民にも走行してもらうことを提案したい。町民が実際にサイクリングを体験することで、サイクリストに対する理解が深まり、「サイクリストに優しい町」になると考える。

二つ目は【観戦予定が未定の人々へのアプローチ】である。町民アンケートの結果、オリ・パラ自転車競技の観戦予定が未定との回答が30%だった。観戦予定の人と観戦しない予定の人が五分五分だったため、未定の人がどちらに傾くかで盛り上がり度も左右されると考える。また自転車競技に興味はあっても行動に移していない人が多いことも分かった。そこで観戦方法の選択肢を一覧で示したり、どんな人にどの観戦方法がおすすめかを示すために観戦方法を選ぶフローチャートを作成したりすることで、興味を行動へと変えられると考える。

三つ目に【生徒にオリ・パラ開催の実感を持ってもらうこと】である。町民アンケートの結果、町民はオリ・パラの成績自体には興味があるが、その後の小山町への還元についての期待度は低いことが分かった。ここから、町民はまだオリ・パラが地元で開催するという実感がわいていないことが推察できる。そこで静岡県議員との意見交換会で県の観光外国語教育の遅れをご指摘いただいたことも踏まえ、左のような「小山町の生徒への観光英語テキストの配布」を提案する。これによりオリ・パラ期間に外国人観光客が小山町を訪れる際に、もてなす側から会話のきっかけをつくることになり、オリ・パラ開催を楽しみに待つ気持ちが生まれると考える。



最後に、オリ・パラ推進局の皆様、商工観光課の皆様、教育委員会の皆様、商店・事業者の皆様、生徒と保護者の皆様を始めとする、ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

6. 地域からの評価

コロナ禍において2020大会が延期となり、対面議論やフィールドワークも制限される中、大変真剣に取り組んでいただき深く感謝している。実体験を通じた観光客へのマーケティングプランや、緻密なアンケートに基づく町民へのアプローチは説得力があり、特に富士山麓の傾斜地である小山町の地形が、サイクリングのネガティブ要素ではなく「魅力」であるとの発想は新鮮で、施策の幅が広がる良い刺激をいただいた。成果物のコースMAP、動画は優れたビジュアルで浸透力があり、本大会時の交流促進に繋がる英会話ツール、商業者を巻き込む「チャリ弁」など、いずれも実現性・効果ともに期待できる提案として高く評価している。町の自転車活用推進計画やレンタサイクル事業への反映により早期に具体化を図るとともに、2020大会の機運醸成～本大会開催～レガシーの各シーンにおいて、本コンソーシアムの成果を活かした施策を進めていきたい。